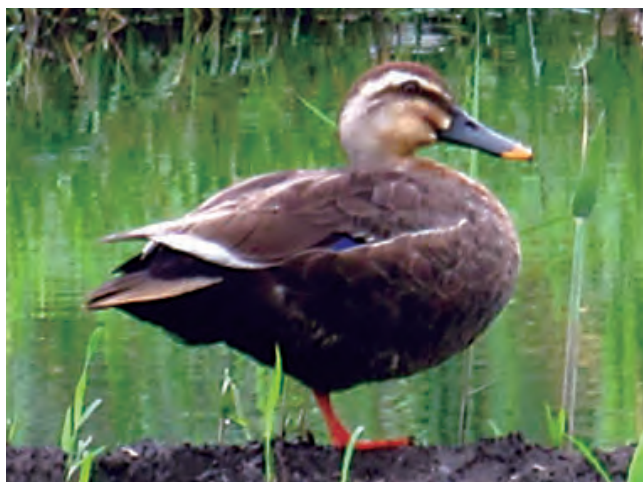


2-2-2 カモ類

カモ目カモ科に属する水鳥。海に生息する種まで含めると日本で見られるカモ類は30種以上いる。このうち、農作物被害をもたらすことが知られている主な種はカルガモ、マガモ、ヒドリガモの3種。



■カルガモ

全長50～60cmの大型のカモ。雌雄とも全体がほぼ黒褐色で、頬から首が淡色。くちばし先端の黄色が目立つ。



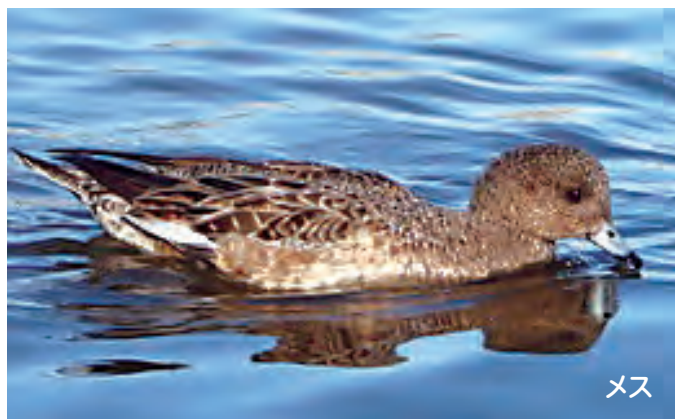
■マガモ

全長50～60cmの大型のカモ。太くがっしりした胴体で重量感のある見た目。オスは頭部が光沢のある緑色、首に白い輪があり、くちばしは黄色。メスは全体に明るい褐色で黒褐色の斑がある。



■ヒドリガモ

全長42～50cmの中型のカモ。くちばしは短めで、頭部は丸みが強い。オスは頭部が赤褐色で額から頭頂部がクリーム色。メスは全体に赤みがかった褐色。



▶ 1. 分布と生息環境

カルガモは日本全国に分布・繁殖し、1年中見られるが、北海道では主に夏鳥で冬は南へ移動する個体が多い。マガモとヒドリガモは主に極東ロシアで繁殖した個体が、冬鳥として日本に渡来する。マガモは北海道や本州の標高の高い湖沼で繁殖するものもある。冬に見られる個体数は年によって、また、ひと冬の間でも寒波や積雪の状況によって、大きく変動する。河川、湖沼、海岸などの水辺に生息し、都市部の池でも見られる。

▶ 2. 食性

主に植物食で、水生植物（特に沈水植物）を食べるが、水棲の小動物も食べる。カルガモとマガモは植物の種子や穀類（収穫後の稲田の二番穂など）、ドングリも好む。ヒドリガモは河川敷や池畔に群れで上がって草の種子ややわらかい葉を食べたり、海岸で海藻類を食べたりもする。

▶ 3. 繁殖や行動等

カルガモは繁殖期は分散して過ごし、4～7月に水辺から少し離れた地上に草を組み合わせて30cm程度の皿状の巣を作り、8～13個産卵する。ヒナが孵化すると間もなく巣を離れ、メスは安全で食物の豊富な水辺へヒナを連れて移動し、水辺でヒナを育てる。

冬は、カルガモ、マガモ、ヒドリガモのいずれも水辺で群れになって過ごし、他のカモ（オナガガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ハシビロガモ等）やハクチョウ類と一緒に群れていることも多い。これらのカモ類の多くは狩猟鳥であり、主に日中は広い水面や水際の植生帯など安全な場所で休息し、夜間に農地等で採食する。ただし、給餌が行われている場所や、鳥獣保護区等で水草等の豊富な水域、ため池等の逃避できる水面が近接する農地では、日中にもよく採食する。

▶ 4. 農作物被害

被害を受ける主な作物は稲、麦類、野菜。鳥類全体や他の鳥種での被害金額は減少傾向にある一方で、カモ類による被害金額は全国で年間5億円前後と横ばいの推移を辿っている（図2-3）。稲での被害金額は減少してきた一方で、近年は野菜の被害が主となっている。被害面積は麦類で大きい、被害量と金額は野菜が大きい（図2-4）。

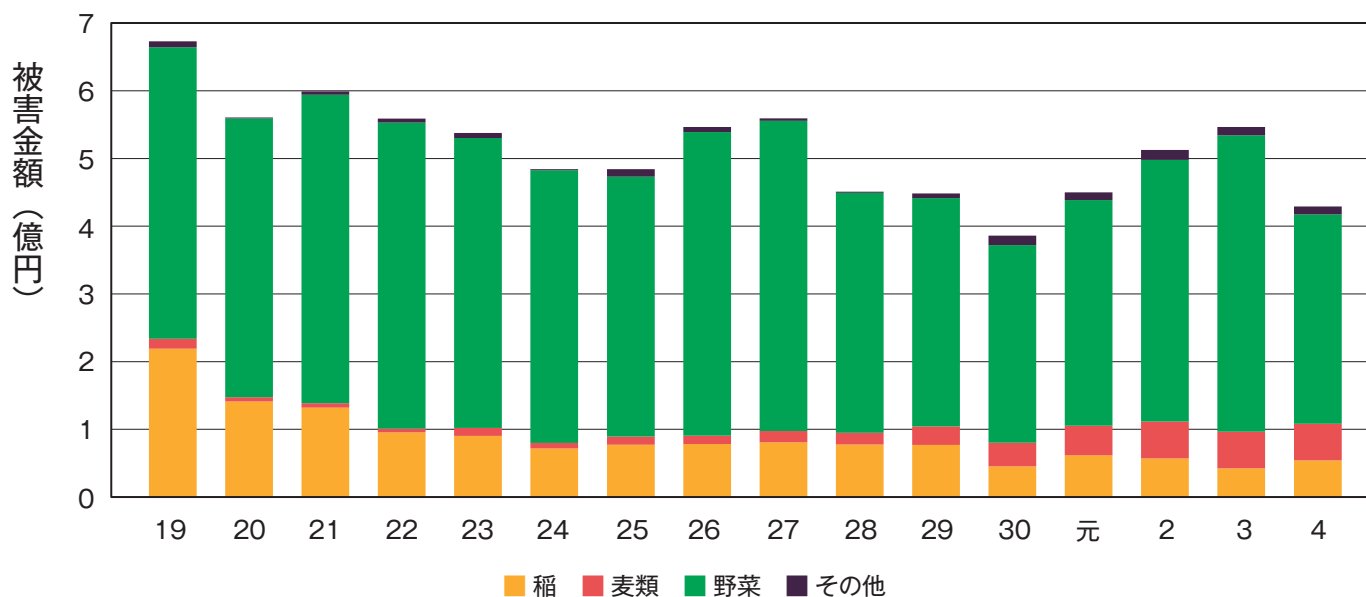
稲の被害は主にカルガモによるもので、湛水直播では種もみや出芽苗のもみ部が食べられたり（写真）、歩行や遊泳時の踏みつけによる出芽の阻害や苗の倒伏が生じたりする。移植水稻でも若齢の苗のもみ部が食べられることがある。特に湛水直播では、周辺の稲田より早く水を入れるためカルガモの飛来が集中して被害が大きくなりやすく、河川や池から1～2km以内の田で被害が多い傾向がある。登熟期は稲穂が食べられ、種子が取り去られた穂だけが残る。畦畔を歩きながら田の外周の稲穂をしごくように食べるため、被害はたいていの場合畦畔沿いに限られ、隣接する田よりも登熟が進んでいる田で被害を受けやすい。

麦類の被害は主にヒドリガモによるもので、冬に若葉が食べられる。穀実収量にどの程度影響するかは、食害量だけでなく加害時期など様々な要因の影響を受けるため、ばらつきが大きい。

野菜ではれんこんの被害金額が大きく、主に秋～冬に、マガモとカルガモ、他にカモ類ではないがオオバン（ツル目クイナ科の水鳥、2-2-8参照）が、湛水されたハス田で繰り返し倒立しながら泥中にあるれんこんを水面下40cm程度の深さまで食べる。収穫したれんこんに少しでも食べ傷があると、そこから変色したり、傷から入った泥がれんこんの穴を通じて前後の節へも浸透したりするため、大きな損害となる（4-1参照）。他に、キャベツをカルガモが、ブロッコリーの葉をカルガモやヒドリガモが食べる（写真）。ほうれんそう（写真）やレタス、くわいでも被害が知られる。

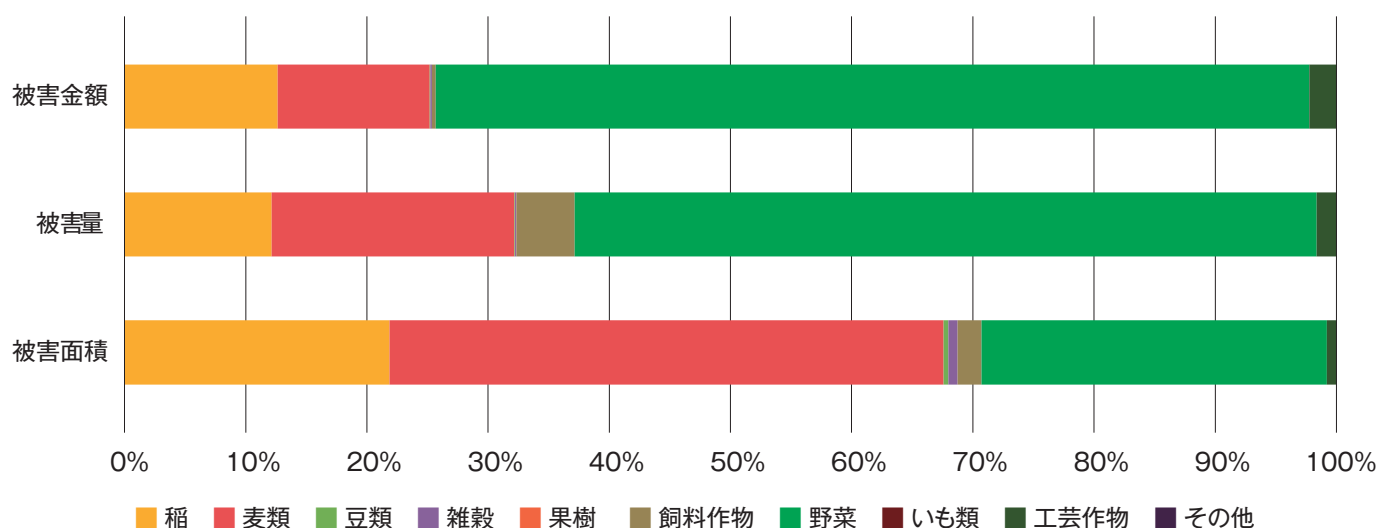
水産分野では、養殖のりでもヒドリガモ等による食害がある。

図2-3 カモ類による農作物被害金額の推移



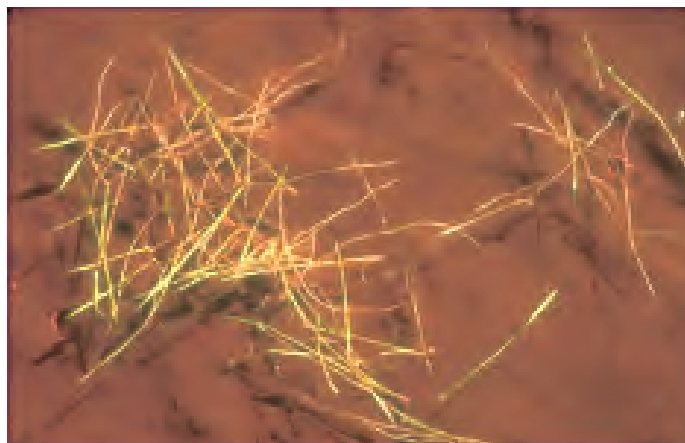
データ:「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(令和4年度)」(農林水産省)

図2-4 カモ類による作物別被害内訳(令和4年度)



データ:「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(令和4年度)」(農林水産省)

5. 被害の特徴



■稲(湛水直播)

カルガモに食べられた苗。もみ部分が食べられ、芽と根は残る。



■れんこん

湛水された収穫前のハス田で見られる泥面のすり鉢状の凹み(矢印)。マガモやカルガモが泥中のれんこんを食べるために水かきで泥を掘ったことによって形成される。



■ブロッコリー

カルガモとヒドリガモが葉をついばんで食べる様子。花蕾ではなく葉を食べ、やわらかい若葉が食べられやすい。



■ほうれんそう

ヒドリガモが葉をついばんで食べる様子。扁平なくちばしでちぎるように食べるため、食べられた葉の先端は粗い切れ込み状になる。